

(2) 第1分科会議

- 司 会：釜山広域市政策開発室 周修鉉博士
- 座 長：オークランド クリスティン・フレチャー市長
- 参加都市：オークランド、ブリスベン、ホーチミン、イポー、ジャカルタ、釜山、佐賀(7都市)

〽️ 司 会 🎲

第1分科会の討議の主題は、「都市間の交流と貿易の振興」で、オークランド市、ブリスベン市、ホーチミン市、イポー市、ジャカルタ市、釜山広域市、佐賀市の7都市代表が参加されました。

分科会の進め方について説明します。

まず、各都市別に主題に関する事例発表がございます。

7つの都市の発表が全て終わった後、自由討議を行い、最後に本分科会の討議内容を整理した後、会議を終了させたいと思います。

引き続きまして、本分科会の座長選出に関する事項です。アジア・太平洋都市事務局で、事前に協議した結果、オークランド市のクリスティン・フレチャー 市長が座長を務めてくださることになりました。

異議がなければ、拍手で歓迎して下さい。(拍手)

では、オークランド市長、よろしくお願いいたします。

□ 座 長

こんにちは。クリスティン・フレチャーです。私は、オークランドの市長です。今回の会議には、ブルース・ハッカー副市長と一緒に参加しました。オークランド市議会のリチャード・ノシー議長もこの会議に参加しました。皆様は改めてご挨拶申し上げます。昨晩はゆっくりお休みになったでしょうか。

第1分科会の主題は、都市間の交流と貿易の振興です。既にご存じと思いますが、オークランド市、ブリスベン市、ホーチミン市、イポー市、ジャカルタ市、釜山広域市、佐賀市、以上7つの都市が参加しています。

では、ただ今より分科会を始めたいと思います。

今回、会議を主催した釜山広域市の関係者の皆様に感謝申し上げます。このような綺麗な花のある素敵な部屋で分科会が出来てうれしく思います。姉妹都市の皆様、また、都市を代表して今日ここに参加して下さった皆様に感謝申し上げます。

〇 座長

ブリスベン市の発表からお聞きしたいと思います。では、ブリスベン市の ティム・クイン市長、ブリスベン市の立場から見た都市間の交流と貿易の振興について発表をお願いします。

[ブリスベン市]

〇 副市長 ティム・クイン

ご紹介ありがとうございます。私は、ブリスベン市の副市長、ティム・クインです。

市長、知事、副市長、アジア・太平洋地域の都市代表者の皆様、ご来賓の皆様、そして、参加者の皆様こんにちは。ブリスベン市を代表してこの都市サミットに参加しましたことを嬉しく存じます。私共は各都市を代表しておりますが、このように互惠の理念の下、友情の輪を広げ、貿易・交流を盛んにする機会を得て幸いに存じます。

本日は、ブリスベン市の域内における役割に対するビジョンと、今後の潜在的機会と都市間の貿易の拡大について、スライドを使ってお話しします。

この活気溢れる釜山に集い、本サミットの要となるテーマを論じ合うことは大変有意義なものです。釜山は天然の良港を誇り、同国の海外貿易の大半を取扱う主要な港湾都市であります。

釜山はリゾートシティ、観光の中心地であると同時に、幾世紀にもわたり賑やかな国際交易の実績を持つ都市、多種多様な製造業の集積する都市でもあります。将来的にも、貿易・交流拡大を目指す私共にとって、釜山はこの地域の他都市にとり模範であると存じます。

新たな千年紀、新世紀を迎えようとする中で、我々諸都市も国際的世界経済、急速な技術革新そして都市化のチャレンジに一層の活力と新たな決意のもと解決にあたらねばなりません。通商貿易、経済関係を支配する法律・協定は全て国および国際レベルで定められています。

しかし、一国が国際経済の場に参入し競争していくためには、都市や地域のレベルにおいてこそ、政治、経済、事業、知的・社会的インフラの集積を進めなくてはなりません。

地方政府、市政こそ健全かつ進歩的でなければなりません。私共は、都市の成長に取り組み、その影響を考慮しながら、都市が、健全、安全そして活力を持続けるように、行政サービスと都市管理機能を整備する責任を負っています。

都市は、地域社会の技術、財務、人的資源の手綱を取り、都市が遭遇する問題解決にあたり主役を演じる力量を持っています。

これらの問題は全ての都市に共通で、違いは場所と規模だけです。今ここで進行中の対話は、情報の共有、市当局間の相互支援の進展など、多々有益なチャンスをもたらします。

我々が生きているグローバリゼーションの時代、広範な諸問題と取組むうえで戦略的パート

ナーシップの機会に恵まれることでしょう。

ブリスベンが多岐にわたる諸問題を検討するため、この会議に類似した一連のサミットのホストとして指導的役割を務めてきました。これらサミットには、広大なオーストラリアの多様な地域社会や経済界のリーダーが出席いたしました。いわば、この週末のサミットを補足する働きを持つ会合でした。

近年、この「アジア・太平洋都市サミット」は福岡市のご尽力によって成功裏に組織されて参りました。釜山の会議は、ブリスベンが組織・開催しました「アジア・太平洋シティサミット」を完成に導くものにあたると考えます。

ブリスベンで開催された1996年と1999年のアジア・太平洋シティサミットでは、都市と企業が協力して方向を定め、構想の共有と帰属に関して討議しました。このサミットは、1996年に生まれた携がりをも強固なものとし、一連の国際的イベントを補完してきました。この体験により、市並びに地域の首長、業界のリーダー達は、アジア・太平洋地域全般における市政運営面の改善に資する知識とアイデアを共有することが出来ました。

1999年のブリスベンサミットには、21を超える国の600名以上の代表者が参加し、同時に、アジア・太平洋地域63都市の指導者が積極的に参加しました。

これを契機に、ブリスベン市では、将来のアジア・太平洋都市の関係イベントの調整を図るため、事務局を設置しました。この事務局の役割は、1999年のシティサミットの成果をフォローし、アジア・太平洋関係で進捗中の一連のイベントに対応し、準備を促進することにあります。

参加各都市が高度の連絡通信を維持できるよう、双方向性あるツールとしてウェブサイトも設置しました。電子メールネットワーク、電子掲示板、チャットルーム等は地域内都市間での直接対話を可能とするものです。

これらを契機に生まれる地域的リンクは、2001年5月に、アメリカのワシントン州シアトルで開催の第3回アジア・太平洋シティサミットに向けて強化されるものと考えます。2001年のサミットで検討されるテーマは「技術の世紀における都市」となっており、特に、市政における技術利用に関する重要問題と技術が社会に与える影響を考察します。

このサミットと同様、ブリスベンは域内都市との戦略的経済関係構築を目標とする国際的諸活動を実行しています。

ブリスベンには、神戸、オークランド、深土川、スマラン、高雄など活発な交流を行っている姉妹都市が5都市あります。この姉妹都市関係は、ブリスベンと姉妹都市間の有益な交流事業開発を支援する姉妹都市委員会を通じて緊密なものとなっています。

以上に加え、ブリスベンは国際訪問事業、職員交流事業、名誉大使事業なども行っています。

また、日本の習志野市との協定のように、国際環境保護のためにパートナーを組むケースもあります。習志野市とブリスベンは、共に、年間の季節を違えて多くの岸辺の渡り鳥の中継地となっています。

ブリスベン市は、韓国大田にある世界技術都市協会の創立会員都市でもあります。国際的に科学技術の発展を図り科学技術班が都市間の知識と経験を分かち合っています。また、ブリスベンでは、市の経済開発局及びブリスベン市営企業を通じて、人、アイデア、革新、技術の交流に力を注いでいます。

オーストラリア最大の地方政府として、88万市民を代表し、また16億ドルの年間予算を擁するブリスベン市は、市政、都市計画、地域社会開発、都市インフラ、サービス、財務問題等に関して共有し得る豊富な経験を有しています。

経済開発局(OED)は事業拡大・移転の問題から、事業ネットワーク構築、情報入手、地方・州・連邦政府との調整まで、多くの分野について支援を行います。また、同局は市内商工業地域内の好立地選定に関して、重要な支援を行う等、新規投資を呼び込む責任も負っています。

ブリスベン市営企業(BCE)は、ブリスベン市議会に所属する企業体で、その業務はオーストラリア、アジア・太平洋地域をはじめ、他のクライアント各国に対して都市・市街地管理のノウハウとサービスを提供することです。

BCEが達成したプロジェクトで、近隣地域と知識・アイデアを共有することができたプロジェクトの事例をいくつかご紹介します。

第一には、交通管制システムです。

1997年初期にマレーシアでバーチル・パートナーズ社(Burchill Partners)との関係ができて以来、BCEは、マレーシアでプロジェクトを進める機会を模索してきました。

BCEチームは、マレーシアを訪問して、BLISS交通管制システムの実施に関し、ジョホールバル市当局と協定書締結を行いました。

BLISS交通管制システムは、14年間を費やしてブリスベン市交通運輸部が開発したインテリジェント交通システムで、最先端を行く信頼性が高い効率的な交通管制システムです。BLISSは、道路網の交通信号機を中央で調整するもので、交通事故、渋滞等の発生時に交通の流れを改善するために、交通信号の作動の制御を可能とするものです。

また、BLISSはバスがスケジュール通り運行できるよう、主要交差点ではバス優先の要素を入れて調整します。バス停で待っている乗客に対しては、電子表示板に情報を流します。

オーストラリア国外でのBLISS設置は、ジョホールバルが初のケースで、この事がジョホールバル市民に恩恵をもたらすと同時に、最新技術による問題解決の面でBCEの知名度を高めるものと考えます。

もう一つの例は、バンガロール上水道及び衛生事業です。BCEは、主要コンサルタント会社と共同で、オーストラリア連邦政府のAusAID事業が投資する大型上水道事業を落札しました。

ブリスベン市議会の水道事業を行う水道局の専門家は、バンガロール市水道衛生局に対し、水道事業構造と運営方法の変更について専門的勧告を行います。

また、この事業では、バンガロール市における基本的サービスの向上を目指し、同市のエンジニアや管理者と専門的知識を分かち合うことにしています。

BCEがコンサルタントとして加わった事業には、南アフリカ財務省に対する助成金料率に関するもの、ソロモン諸島政府のパートナーとして行った首都ホニアラと都市圏での水道・下水道施設の調査等があります。

クイーンズランド州都であるブリスベンは、商業・貿易・技術・教育の中心として、州の経済発展のため主要な働きをしています。

また、オーストラリアで、最も安全、清潔そして最も緑の多い都市として相応の名声を博しています。

オーストラリアで最も税金が安い州都であるブリスベンは、企業立地を考える実業家にとって、価格的に最も競争力があり、財政的にも安定した土地柄であるとして、第一の候補に上げられています。

オーストラリア・トレード・コーストでは、新産業立地のための土地や設備が整っており、港湾やブリスベン市内の土地及びブリスベン空港の設備などが活用できます。

ソフトやコンピューターサービス産業もブリスベン内の企業活動でかなりの部分を占めています。また、ブリスベンでは、アジア・太平洋地域の多くの留学生を受け入れ、コンピューターサイエンス、情報技術、電気工学、国際ビジネスなど高度な教育を行っています。

最後に、釜山市の方々、また韓国政府に対し、私どもブリスベン代表へのご歓待にお礼を申し上げます。

サミットにご出席の皆様、お国にお帰りの際は、ブリスベン市のウェブサイトと関連ページをご覧ください。また、機会をつくっていただき、ぜひブリスベンをご訪問ください。心から歓迎いたします。

ブリスベン市主催の都市サミットが2001年5月にシアトルで開催されます。今後この二つの都市サミットの携がりをより強化する方法を模索したいです。二つのサミットを携げばかなりのシナジー効果を得られることでしょう。

また、ブリスベン・エンタープライズBCEについて紹介する機会を得まして嬉しく思いました。ありがとうございます。

○ 座長

ありがとうございます。ティム・クイン副市長、少々お待ち下さい。

質問を受付けます。発表内容についてプリズベン市に質問やご意見ございませんか。クイン副市長に質問はございませんか。南忠熙釜山副市長。

○ 南忠熙 釜山政務副市長

発表ありがとうございます。一つ質問があります。私たちが開催しているものと類似した都市サミットをプリズベン市も開催しています。前回のサミットには私も参加しました。どのような類似点と違いがあり、どのような方向へと一緒に模索すべきでしょうか。

○ ティム・クイン プリズベン副市長

福岡市、釜山市、広州市が主催しているサミットとプリズベン市主催の都市サミットは相互補完的な役割を果たし、共に協力出来ると思います。

多くの都市が二つのサミットに参加しています。プリズベンもそうですし、今日参加された都市は皆、両方のサミットに参加しています。どうすればこの二つのサミットの連携を強化させるかということを考えてみる必要があると思います。技術を共有したり、ウェブサイトを共有するのも一つの方法だと言えます。

二つの都市サミットは、お互い補完するハープの役割と似ていると思います。ですから、今後、二つの都市サミットを携げる具体的な方法が今回の都市サミットで上げられることを期待しています。

例えば、今回の釜山都市サミットの結果を来年5月のシアトルで開催されるサミットに連携させる方法もあるでしょう。今までは、二つの都市サミットが偶然連携していたと思います。これからは、二つのサミットをより強くリンクさせ生産的なものにしていく方法を模索すべきだと思います。

○ 座長

発言ありがとうございました。また、質問ございませんか。参加者の皆様、ティム・クイン副市長に感謝の拍手をお願いします。

次は、ホーチミン市のヴォ・ヴィエット・タン人民委員会議長です。皆さん期待しています。では、お願いします。

[ホーチミン市]

○ 議長 ヴォ・ヴィエット・タン

議長および各都市の代表の皆様、この美しく近代的でホスピタリティあふれる都市釜山での、第4回アジア・太平洋都市サミットに出席できますことを大変光栄に存じます。

私は、この会議において、様々な領域の都市管理に関する諸都市の体験談から多くのことを学ばせていただくことを主な目的としております。私は、ホーチミン市がいかに他都市との貿易を促進してきたかという点に焦点を絞り発表いたします。

ご存知のように、大都市はその国の経済発展と統合において重要な役割を担っています。都市というものは、通常、成長の源であり、産業やサービス活動の中心であり、外の世界との貿易、科学技術や情報を伝える窓口とみなされております。ホーチミン市も例外ではありません。ベトナムが経済開発に出遅れ、徐々に力をつけていく中、ホーチミン市は、貿易の促進、海外資本の誘致と技術革新が、工業化、近代化において必要不可欠であると気付きました。とはいえ、克服すべき最大のチャレンジは、いかにして既存の相対的優位性の上に、高い競争力をもつ産業を育成し、地域の、そして世界の発展の主流に乗っていくことができるかということです。

中央政府主導の経済計画は、長年にわたる景気低迷により深刻な経済危機をもたらしました。ベトナムは、1980年代半ばから、社会経済状況の安定のため、「ドイ・モイ」と呼ばれる思い切った経済改革を次々に行ってきました。社会経済的状況を改善するために始まったこの運動により、市場経済に移行し、経済の回復と発展に必要な制度も導入してきました。改革に際しては、マクロ経済の確立、法令の制定と法制度の確立により経済発展に役立つ資源をすべて運用できる体制の整備、また、外国との経済的統合促進のために門戸を開くことに力を注いでまいりました。

ホーチミン市は、全国で最初に市場経済改革を推奨し、試行した行政区と言えます。これらの適切な経済改革とホーチミン市民の生来の活力が、本市の1990年代初頭以降の経済成長を促進したのです。1991年から1999年までの国のGDPの伸び率が平均7.7%であるのに対し、ホーチミン市の場合は平均11.7%を記録しました。

ホーチミン市とベトナムの急成長を支えた二つの原動力は、輸出と外国資本の直接投資ですが、これらは、経済開発政策と世界経済の統合の賜物です。

1990年代初めに東欧市場が崩壊したとき、ホーチミン市とベトナムからの輸出は大きな試練を迎えました。ホーチミン市は率先して、アジアと西欧の市場に目を向け、民間企業による海外の輸出入の取引先との直接交渉を認め、関税を引き下げ、国の貿易市場独占を廃止し、競争市場の導入をするなど一連の貿易自由化政策を採りました。

これらの変革は、重工業から消費財や輸出への政策の転換とあいまって、1991年から1999年までの平均成長率において、輸出17%、輸入15%の伸びをもたらしました。1987年終わりの国外投資法の公布により、経済発展のための追加的資源を活用することができました。2000年第1四半期の終わりまでに、外国からホーチミン市への直接投資総額は110億ドルに達しました。ホーチミン市の外国企業のほとんどが、合併事業もしくは100%外国資本の会社です。1991年から1999年までのFDI（海外資本の直接投資）の付加価値の年間増加率は23%と、ホーチミン市のGDP内訳の18%以上に上ります。

経済改革を数多く達成したにもかかわらず、今なおホーチミン市とベトナム経済は構造上の弱点に直面しております。工業生産は一気に発達するものの、効率が悪く、また重要な財政や銀行業務などのサービス業は、依然として十分な発達を遂げておりません。このような背景の下で、地域経済が危機に瀕したのを受けて、経済成長もFDIの成果も腰折れとなりました。この難局を打破するため、過去二年にわたり、ホーチミン市はベトナム全土と一体となって、必要な改革に着手してきました。つまり、貿易の自由化促進、国の経済分野の再編成、財政金融制度の強化、FDI促進のための法改正、民間セクターの発展に適した条件づくり、そしてさらに行政や法律面での緩和を進めるためのより包括的な改革の断行、単に「申請すれば許可がもらえる」ような制度への転換、政治機構における官僚的形式主義の克服です。

先に述べました根本的な経済上の欠陥が是正されなければ、統合の成功が危ういことは私どもも認識しております。しかし、外部の支援によって問題の改善が促進されることも承知しております。従いまして、私どもは外部に接近して統合を図る方法と、自己改善の方法とを同時に採用しております。ASEAN、AFTA、APECの一員となることや、アメリカ合衆国との貿易関係正常化、来たるべきWTOへの加盟は、ベトナムの経済のように発展途上にあるものにとって、チャレンジに満ちた進路なのです。グローバリゼーションも変化し、基本的産業構造も場所も変わりつつあります。今日、国と言わず都市の発展の道筋さえ、世界的競争力をもつ産業の有無に左右されるようになっていきます。ホーチミン市は、この目標到達のために、製造業者や企業家の間で戦略的に重要な協力関係をつくり上げることにしました。製造業者と企業家が手を結び、もう一方では政府と手を結び、同時に確固たる資源の開拓を進めます。

私どもは目下、一層の経済発展のためにビジネスネットワークと、ビジネスの戦略的協調関係並びに情報交換の拡大に焦点を絞っています。ネットワークや協調関係が非常に重要なことは明白です。このことによって、経済組織の間で情報交換が進められ、技術の刷新と製品の開発が進められます。産業に十分な力と技術力と効果的競争力をもたらすのは、貿易におけるネットワークであり、情報であり、知識です。さらにネットワークは、協力関係や、協調関係、合併関係または共同経営関係にある企業間で信頼関係を築きます。都市間交流や貿易面で互恵

が実現されるとき、競争力もついてきます。ホーチミン市はこの方向に向かうことをお約束いたします。

議長および皆様、このお約束で、私の発表を終わらせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。

○ 座長

ありがとうございます。ヴォ・ヴィエット・タン議長に感謝の拍手をお願いします。

タン委員長、質問に答えてから席にお戻り下さい。

まず、私から質問をしたいと思います。どうすれば、このような官僚主義を克服できるでしょうか。否定的なものを肯定的に変えるにはどうすればいいでしょうか。子供達が学校に入学する時から、子供達の教育の段階でこれらを念頭に置くべきではないでしょうか。ニュージーランドでは「やれば出来る精神」と言っておりますが、幅広い思考を持つようにするには、どうすればいいでしょうか。

○ ホーチミン市議長 ヴォ・ヴィエット・タン

官僚主義、不正腐敗、これらは多くの国が抱えている問題です。ベトナムもこのような問題を解決するため、様々な措置を取っています。

まず、法的制度を完成させるために努力し、第2には、行政的な体制を改善するため努力しています。透明性を高めようとしているのであります。これにより、市民を一層積極的に行政的管理部門に参加させるよう取組んでいます。

○ 座長

ありがとうございます。また質問ございませんか。タン委員長、ありがとうございました。

次は、イポー市のダト・タラット・フセイン市長、お願いします。

【イポー市】

○ 市長 ダト・タラット・フセイン

議長、ご紹介ありがとうございます。

市長の皆様、アジア・太平洋都市サミットの参加者の皆様、ご来賓の皆様。

私はまず、釜山に招待して下さいました安釜山市長と釜山市民の皆様には感謝申し上げたいと思います。そして、本都市サミットを立派に開催し効果的な運営をして下さった組織関係者の

皆様にもう一度感謝申し上げたいと思います。

では、今日のテーマである都市間の交流と貿易の振興についてお話申し上げます。

皆様、本分科会の議題は、都市間交流・貿易を促進するようとの私達への問いかけとも受け取れます。イポー市としては、この提案に大賛成いたします。また、世界は、国家間協力の時代から、都市・地域間協力の時代へと進化していることを認識しています。さて、この現象は何か新しいもののでしょうか。第二次世界大戦後の流れから考えればそうかも知れません。しかし、歴史的観点に立つと、こうした都市・地域間の協力は目新しいものではありません。

私の短い発表の間に、都市間の交流・貿易の現状や可能性に関して、統計・数字を示し、皆様に煩わせる考えはありません。ここでは、都市並びに国の発展の歴史に軸足を置き、私たちが着手しようとしている都市間協力は、決して無意味でなく、一層の協力により、過去の都市の栄光を甦らせることができる点を強調したいと思います。また、特に、日本の福岡市との姉妹都市提携の経験から、都市間協力がもたらす利点のいくつかとその将来展望について皆様にお話ししたいと思います。

新千年紀の夜明けを迎えた今、世界の人口のほとんどが、市街地すなわち都市近郊に集中しています。産業革命によって可能となった過去1世紀の急激な都市化は、無数の問題点と可能性をもたらしました。今日、私達は国家から成り立つ世界に生きているという事実にかかわらず、政治・経済・社交の中心が都市にあることは否定できません。都市は、もはや後背地が供給する商品の単なる交易場所ではなく、文明と文化が栄える場となっています。国家が、富と資産を費やしている場所は都市部です。国民の多くが、今日、都市に住んでおり、市民の一番近くにある都市行政の代表者である我々こそが、国家間協力の最大限の可能性を引出すことが出来るのです。コンピューター革命熟成化の産物である、電子商取引、いわゆるeコマース、テレビ会議、その他の情報技術(IT)によって、都市間の協力・貿易は、より促進されることと予想されます。

歴史の示すところでは、5千年から6千年前、中近東のナイル川、チグリスおよびユーフラテス川流域の肥沃な土地に、最初の都市が現れ、アジアでは、インダス川、黄河流域に最初の都市型定住地が出現しました。農業生産性の向上につれ、余剰食料の交易の中心地となり、続いて政治・宗教の中心地として発展しました。ヨーロッパでは、都市は、まず、アテネ、スパルタなどのような都市国家として発達し、次に、ベニス、ジェノバなどのような国際貿易の中心地として発達しました。世界中の様々な商品・サービスの交易が起これ、この国際貿易により、都市は未曾有の繁栄を享受し、市民の生活水準も向上しました。アジアでは、釜山が歴史的にも主要な貿易港であり、この例にまさにあてはまる都市です。

さて、国家主義は最近の現象です。最初の例の一つが、フランス革命です。ナポレオンのフ

ランス拡張主義の帝国に対する反動として、他の都市王国は、フランス帝国主義から身を守るため「国家(nation)」を形成しました。国家主義は、帰属意識と安定感をもたらす点で大切なものですが、否定的な面もあります。

国家主義がもたらす負の側面の一つは、経済保護主義です。都市が国・国家の「下部組織」であり、「従属組織」である状態では、あらゆる政策は、国家のアジェンダに沿ったものにならざるを得ません。しかし、国家間の協力と貿易が経済発展の源と見なされるようになって以来、極端な保護主義は解除され、現在では、各国は世界経済へと移行しています。しかし、それだけでは充分ではありません。大規模な国家政府は、性格上、特に官僚主義化の傾向があるからです。そこで、都市間の協力、交流により良い未来の展望をもたらします。

ほとんどの人が都市部に住んでいる現在、都市間の直接的協力・交流は、以前に比べ強い影響力があります。都市が、独自に都市間レベルでの貿易を行うようになれば、官僚主義的慣行や保護主義的傾向を抑制することが出来ます。また、諸都市がお互いに国際関係を持つようになれば、より緊密で友好的な関係が生み出される可能性があります。都市間交流の促進は、経済協力の第一歩となります。こうした都市間協力は、市民、そして国に繁栄をもたらし、更にはより良い安全な世界の展望を与えてくれます。

次に、イポー市と福岡市の交流についてお話しします。

1989年、イポー市と福岡市が姉妹都市として正式調印して以来、「産業と経済・文化・スポーツ分野での相互交流を通して」より緊密な友好関係を築くため、両都市は大いに努力をし、これまで、イポー市と福岡市の間で、多くの交流事業が行われてきました。過去10年の間、様々な交流プログラムが推進されました。福岡市長を始め代表団をお迎えしての「フクオカウィーク」を通じて、文化的な交流は一層活潑になりました。毎年、イポー市と福岡市では、互いにホームステイや社会・文化交流事業を行っています。教育の分野では、ラジャ・ディヒリール(Raja Dihilir)小学校が、福岡市の内浜小学校と姉妹校を結びました。こうした姉妹校はマレーシアでは初めてのものでした。

両市とも、こうした親密な関係の恩恵を受けています。福岡は、技術的な分野でも多くの支援をして下さいましたが、イポー市の日本庭園もその一つです。また、これは、両都市間の交流を象徴する産物でもあります。

企業部門でも交流を通じて両市は相互間の貿易・産業交流を一層推進しようとしています。

新しい技術を通じて世界は、今や地球村となりました。

電子通信や高速通信網を通じて事実上一つの都市のように携がっています。電子商取引(EC)、テレビ会議、その他の情報技術(IT)の活用によって、都市間協力を促進することも可能でしょう。今年初め、イポー市は、市民へのより良いサービス提供を目指し、kiosk・加入電話を利用

した「仮想市役所(Virtual City Hall)」計画に着手しました。この計画の第一段階として、イポー市役所と一般市民の間の電子商取引(EC)が行えるようにし、次に建築企画申請、許可等の手続きに広げていく考えです。この計画の利点は、世界中の一定のサービスを、イポー市民に、週7日、1日24時間いつでも提供できることです。他都市でも、同様の計画が今後行われると考えています。また、この情報技術は、経済その他の分野の都市間協力に大きな可能性をもたらすものと思われます。

以上申し上げて参りましたように、諸都市間のより大規模な協力により、各都市の市民は繁栄し、アジア・太平洋地域、更には全世界が、より友好的で安全なものに近づくとイポー市は確信しております。次の世代の人々に、平和と繁栄が訪れますように。ご清聴ありがとうございます。

○ 座長

フセイン市長、ありがとうございました。皆さん、質問をどうぞ。

○ 南忠熙 釜山政務副市長

サイバー市役所計画についてお話して下さいましたが、かなり画期的なアイデアだと思います。もう少し詳しく説明して下さいませんか。また、ホームページのアドレスがあれば教えて頂けますか。

○ ダト・タラット・フセイン イポー市長

南副市長、質問ありがとうございます。

サイバー市役所については幾度か質問されましたが、サイバー市役所は、まだ導入されたばかりのものです。イポー市とカナダ政府間の交流の成果の一つです。バンクーバー、リッチモンド、イエローナイフのようなカナダの都市でもこの制度が導入されています。

サイバー市役所は、情報通信施設を利用して、市民と市の行政を担当する部署とを、世界のどこからでも24時間携げるシステムです。インターネットを通じて、また、音声認識とキオスクというシステムを通じて、市民はわざわざ市役所まで来なくても用事を済ませることが出来ます。勿論、時間を節約することが出来ます。

また、市の業務時間にも捕らわれず、いつでも市役所にアクセス出来るという長所もあります。例えば、キオスクやインターネットではなく、電話でも市役所の用事を済ませます。これは、今年の初めに導入されたプログラムです。

いつか機会があれば、直接ご覧になって頂きながら説明し、他の都市との交流や経験につい

でもお話したいと思います。

○ 座長

かなり進んだプログラムで歓迎すべき内容でした。多くの方が関心を持っていますので、時間があればもう一度このシステムについてお話を伺いたいと思います。他に質問ございませんか。では、ステイヨソ ジャカルタ道知事、発表をお願いします。

【ジャカルタ】

○ 道知事 ステイヨソ ジャカルタ

議長、ご来賓の皆様、ありがとうございます。

釜山市に感謝申し上げます。ジャカルタを招待して下さり、この貴重なフォーラムに参加出来ますことを嬉しく思います。

ジャカルタについて簡単にご説明します。

ジャカルタは、インドネシアの首都で、国家発展に重要な役割を果たす行政の中心地であるだけでなく、経済面でも中心的役割を果たしています。そして、国家経済開発にも大きく寄与している都市です。スライドをご覧くださいと、ジャカルタがどこにあるのかお分かりになると思います。

ジャカルタは、東南アジアに位置する13000余りの島で構成された国、インドネシアの首都です。

ジャカルタは、競争力向上のため、行政、流通、金融、観光、情報センターという5本の柱からなる「サービス都市」を標榜しています。スライドにも、それが表れています。5つの柱があります。

ジャカルタは、世界で一番大きい都市の一つです。人口は、夜が950万名で、昼が1100万名です。郊外から人々が出勤するので昼の人口が多いのです。それで、ボタビーク地域と呼んでいます。

1997年の経済危機によりジャカルタの経済成長率は最低値を記録し、さらにマイナス成長にまでなりましたが、現在は徐々に回復しつつあります。過去3年間、ジャカルタの経済成長率はかなり伸びてきました。1998年と1999年はマイナス成長でしたが、今年は経済成長率が1.64%、2001年には2.85%となる見通しです。

活力溢れる経済活動センターとして、ジャカルタは信頼度の高い経済構造を備えています。例えば、貿易及びサービス部門が65%、建築・工業部門が29%、農業部門が0.2%等です。

北ジャカルタ湾を新規産業基地に開発するという希望に満ちた計画と共に、ジャカルタはMRT(Mass Rapid Transit)ネットワーク建設を予定しています。ジャカルタの経済展望は良好で、非常に将来性に富んだ投資対象となっています。

しかし、我々都市の持つ主な問題は、余りにも多くの人口が集中しているということです。そして、貧富の差が激しいという点です。交通渋滞、環境破壊等も私たちの抱えている問題です。

ジャカルタは、このような問題を解決するため努力しています。それで ジャカルタは、上水道計画、大衆交通計画、中央都心地域部門まで改革を推進しようとしています。そして、このような地域を開発する予定です。

各々のプログラムについて詳しく説明したいと思います。

まず、ジャカルタ・ウォーター・フロント・シティ・プロジェクトについてご紹介します。海岸地域を埋め立て、歴史的な縁のある地域を再び活性化しようというものです。持続可能な開発のため、民間、公共、地域社会がお互い協力して参加しています。その面積は、6200Haに達しています。

2700Haは埋立地です。ジャカルタ北部地域にその埋立地を作ります。その幅は32Kmにもなります。

計画の内容は、次の通りです。

観光、貿易の中心地、ハイテク産業、そして住居地域を建設し、完全なインフラを構築しようとしています。そして、タンゼンフリー湾も再建築しようとしています。

大衆交通プロジェクトについてご説明します。

このプロジェクトを通じて、都心地域の交通渋滞を緩和させるという目標を持っています。そして、大気汚染を減らすためにプロジェクトに着手しました。それで18Kmという距離のサービスを提供しました。駅の数17で、毎時間4万5千名の乗客を移動させています。

セントラル・ビジネス・プロジェクトについてお話しします。

オフィスや貿易施設を統合させアクセスも容易にし交通の流れも円滑にすればコミュニケーションも円滑になるでしょう。そのためには勿論、協力が必要です。そして、外資の投資も多く必要とされます。今現在、投資環境は好転しており、多くの海外投資家を引き付けています。その理由は、適切なインフラ、情報コミュニケーションの利便性、豊富な人的資源等がジャカルタに備わっているからです。

また、ソクロナガタという国際空港も我々が運営しています。

現在及び将来の潜在的投資対象分野は、サービス、観光、貿易、食品産業、運送、通信分野等です。一方、魅力的な投資対象品目は、製菓、衣服、靴、ハンドメイドの工芸、家具等で、

これら商品の輸出額は、毎年大幅に上昇しています。また、ジャカルタは、金、宝石類、熱帯魚、熱帯植物、加工食品等は即納体制にあります。

様々な文化と人種が混在するジャカルタは、芸術、文化、人種的多様性が豊かで、インドネシアの主な観光地でもあります。海の底のパノラマが楽しめるサウザンド・アイランド(1000の島;Kepulauan Seribu)地域、スンダ・クラパの独特な港、古い建物と昔ながらの景観を持つ魅力的な中心市街、そして博物館など、ジャカルタには、独特な名所がいくつもあります。

世界都市の一員として、ジャカルタは東京、ソウル、ベルリン、パリ、北京等の大都市と姉妹都市提携の下、協力を行っています。このような協力には、人材派遣、商談、貿易の振興、観光、都市経営、環境保護等の活動が含まれています。一般的にこうした協力は、都市相互に利益をもたらす、ジャカルタの開発にも好ましい影響をもたらしています。

本フォーラムを通じて期待していることは、貿易・ビジネス分野での協力、労働力の交流、技術移転などが行われることです。地球規模の競争時代に、ジャカルタはこれを基に一層競争力をつけ、存続していくための発展を計画しております。

ありがとうございます。

□ 座長

ありがとうございました。皆様、質問はございませんか。

南忠熙釜山政務副市長、どうぞ。

□ 南忠熙 釜山政務副市長

発表ありがとうございました。

インドネシアは98年度と99年度にマイナス成長を記録しましたが、その原因は、アジア圏国家が共通的に経験した通貨危機のためでしょうか。或は、他の特別な要因からでしょうか。そして、外資の投資が開放され多くの投資が行われていますが、特別なインセンティブがあるのでしょうか。

□ スティヨソ ジャカルタ道知事

インドネシアは、外国投資に対し保障をします。安全な環境を提供しているため多くの人が投資しています。そして税制上の特典も多いです。これが魅力的なインセンティブです。外国人は、このようなインセンティブに引かれて投資をします。

経済危機と関連して申し上げますと、インドネシアの経済危機は、他の地域とは若干事情が違います。経済的な危機だけでなく政治的な危機も一緒に経験しました。それで経済危機が一

層深刻なものになりました。しかし、このような問題を解決するため多くの努力を注いでいますし、他の都市に比べ回復は遅いですが、徐々に回復に向かっていきます。勿論、このためには皆様の支援と支持が何よりも必要です。

○ 座 長

ありがとうございます。また質問ございませんか。では、感謝の拍手をお願いします。次は、主催側の釜山広域市の発表です。南忠熙釜山広域市政務副市長、アジア・太平洋の都市間の交流と貿易の振興という主題について発表をお願いします。

[釜 山]

○ 政務副市長 南忠熙

議長、参席者の皆様、こんにちは。本日参加して下さった皆様に歓迎のお言葉を申し上げたいと思います。

あちらにスライドがございます。スライドをご覧になりながら話を聞いて下されば一層理解しやすいと思います。今日のお話の内容は、アジア・太平洋都市間の交流と貿易の振興です。

いくつかのテーマに分けて述べさせていただきます。

まず、第一には、「アジア・太平洋都市間ネットワークの強化の必要性」についてお話させていただきます、引き続き「国際的な経済協力増進のための釜山市の取り組み」についてお話申し上げます。そして、最後に「アジア・太平洋地域の都市間交流と貿易の振興のための具体的な提案」をしてみたいと思います。

まず、始めに、アジア・太平洋地域の都市間ネットワークの強化の必要性について申し上げます。

WTO体制の発足に伴い、世界経済はグローバル化、ボーダレス化が進み、貿易自由化と自由競争という流れの中に巻き込まれています。

例をあげてみますと、韓国は、昨年までに種類市場を完全開放したものの、輸入ウイスキーについては、関税20%、特別と特別消費税100%など、高い税金を課していました。しかし、WTOの「同一品目、同一税率適用」の勧告に従い、韓国政府は、焼酎に対する消費税を72%に引き上げ、輸入ウイスキーの税金を引下げました。これにより輸入ウイスキーにとっては有利な環境になりました。焼酎という韓国で一番ポピュラーなお酒が、自由競争により輸入ウイスキーに押されるようになりました。自動車、たばこ、牛肉も同じような状況です。世界の経済はグローバル化され、今や自由競争、国境のない競争体制に入りました。

もう一つ、最近台頭している現象は、地域ブロック化現象です。NAFTAのような地域的な排他的経済ブロック化現象が現われ、東南アジアのAFTA、南米のメルコスール(MERCOSUR)など排他的経済ブロックが生まれました。これにより、経済ブロック以外の国家は、経済的に不利な立場に立たされるようになりました。

どのような不利な条件があるのか例をあげてみますと、NAFTAは、中南米を危機に追い込んだ主犯となりました。NAFTA協定の発効に伴い、中南米に進出していた約800の韓国企業は、非関税・物流費用節減の特典があるNAFTAに移るか、或は、撤退しました。

このようなWTOの政策、例えば「ゼロ関税を通じた自由貿易指向」や「各種の補助金支給の禁止」は、結局中央政府の役割を急激に弱めました。従って、都市がその中央政府の役割を引き受けるべきと思います。

都市と小地域の協力を通じて、より競争力を強化し、地理的近接性や民族的連携性、文化的類似性を基に国際経済圏を形成し、自由競争を乗り越えようとする動きを見せています。黄海経済圏や環東海(日本海)経済圏、成長三角地帯、華南経済圏等は、地域的経済現象の代表的な例と言えます。

今申し上げました地域的な経済ブロック化現象やWTOの発足により、都市や小地域を中心に国際経済圏が形成されています。

では、都市間の国際的な経済協力促進のための釜山市の取組みを紹介します。釜山市は、黄海と環東海経済圏の交差地に位置し、北東アジアの物流において中核的な役割を担っています。貿易、情報、物流の拠点として天恵の条件を備えている釜山市は、21世紀には確固たる北東アジア物流拠点都市、国際業務の中心都市に発展するため努力しています。

ユーラシア大陸の関門で、太平洋沿岸の全ての都市と結ばれている釜山は、コンテナ物量処理において世界4位を誇る国際貿易港です。21世紀にも随一のハブ港としての座を守るため、釜山港の南側のカドク島一帯に新しい港湾施設を建設することにより、年間460万TEUの物量処理能力を持つ新港湾を、第1段階2006年、第2段階は2011年を完工目標に建設しています。

釜山市は、また、理想的な物流ビジネス環境作りにも取り組んでいます。現在推進中のプロジェクト中、一つの例を取って見ますと、ロンドン金属取引所の物流貯蔵施設の釜山港誘致、カムチョン港水産物総合物流センター開発、国際船舶取引所設立等を推進中です。

また、釜山港を関税自由地域として指定する計画もあります。

釜山市の釜山展示コンベンションセンターは、専門展示場が4万7千㎡、コンベンション施設が5千㎡規模です。1998年に着工し、2001年3月に竣工予定です。この他にも、センナムシティ開発事業と東西釜山圏開発事業、北港大橋建設事業、釜山～巨済島間海上道路開発事業等があります。

釜山は、また、海外投資家に様々な支援をしております。ビジネス用の立地提供、賃貸料の減免、税制優遇、そして行政支援など様々なインセンティブを提供し外国資本を誘致しています。フォーチュン誌は、釜山を「ビジネスが行いやすいアジア10都市の一つ」として発表したことがあります。

それでは、今度は、都市国家間のネットワーク強化に対する取組みについて述べさせていただきます。

釜山は、世界13都市と姉妹提携を結んでいます。また、1992年にスタートした日韓海峡沿岸8県市道知事会議と環黄海圏、環東海圏都市会議にも積極的に参加しています。

特に、福岡市と昨年9月に締結した経済交流促進協定は、大きな意味を持っています。このプロジェクトは、両都市間の人的、物質的交流の活性化のためのものであり、一つの経済ベルトを形成することを目標とし、現在、「ビジネスベルト21プロジェクト」を推進中です。

文化的交流としては、釜山国際映画祭と釜山現代美術展等を通じた文化芸術分野のネットワーク構築を推進してきました。釜山国際映画祭は、今年で5回目を迎えています。

釜山市は、外国都市との交流協力において、良きパートナーとなることを希望いたします。

次に、アジア・太平洋都市間の経済交流と貿易の振興のために、具体的な提案をさせていただきます。経済交流と貿易の振興のための提案は、三つあります。第一に、域内都市間の交流協力ネットワークの構築、第二に、情報格差の解消、第三に、人と物の資源の共同開発です。では、順を追ってご説明します。

アジア・太平洋地域の国家は、今までお互い不信感を持っていました。なぜなら、都市間の経済発展の格差が大きく、又、残念ながら歴史的な要因もございます。しかし、今やこのような障害を克服しお互いの長所を結合させるネットワークの構築が必要だと思えます。

このため、都市間シンポジウム、セミナー、フォーラム等を頻繁に開催し出会いの機会を増やし、経済界、大学、研究機関、地方政府間の交流を一層活性化させるべきと思えます。

第二には、情報格差の解消です。昨日、金喆壽教授は、基調演説を通じて、各都市のインターネット・ホームページをリンクさせるという問題を強調しました。私も、これに積極的に同意する次第です。アジア・太平洋諸都市のホームページをリンクさせることで仮称「デジタルAPC」、または、アジア・太平洋都市を意味する「APC」を構築出来ると思えます。このホームページを通じて、観光や文化に対する情報をお互い共有し、都市行政関係者の皆様も関連情報を共有出来ると思えます。

このため、ホームページリンクのためのタスクフォース構築を提案します。

仮称「e-Chamber APC」のようなサイトを構築し、各都市の商工会議所を結ぶという方法もあります。

共同研究のため、各都市の経済研究所を結ぶ、仮称e-ERIAPCの設立も提案します。e-ERIAPCは、アジア・太平洋都市経済研究所を意味します。この場合も、分野別にタスクフォースの構成が必要だと思います。

最後に、人と物の資源の共同開発について説明いたします。このためにも積極的な都市間交流と協力が必要です。

7つの都市は、これから各種の規制と制度を国際規範と基準に合うよう積極的に改め、通商・投資の環境を作るために先頭に立って努力していかなければなりません。

また、域内都市間での共同ブランドの開発を通じ第3国の市場に共同進出したり、海外貿易事務所、商品展示館、コンベンションセンター並びに物流貯蔵施設(倉庫)等のインフラを共同設置して活用するのもいい都市間交流の方法だと思います。

アジア・太平洋地域は、21世紀に最も躍動的に成長する地域として全世界の注目を浴びています。このような注目と期待を浴びているアジア・太平洋地域の都市が、ネットワークを通して緊密な交流・協力をすることは、自らを成長させるために大きく役立つものと考えます。

最後に、アジア・太平洋都市サミットが、アジア・太平洋地域の持続的な繁栄を追求する、最も模範的な協力機関として発展していくことを希望します。

ご静聴ありがとうございました。

○ 座長

ありがとうございました。南副市長への質問を受けましてから休憩時間を設け、その後また会議を続開させたいと思います。

質問ございませんか。ジャカルタ市、どうぞ。

○ スティヨソ ジャカルタ道知事

釜山市の様々なプログラムや開発計画について話して下さいましたが、財政は、釜山市が調達するのでしょうか、それとも、中央政府の支援もあるのでしょうか。

○ 南忠熙 釜山政務副市長

ジャカルタ道知事、質問ありがとうございます。釜山市の経済成長は、期待より下回っています。釜山も経済危機の影響を受けました。特に、釜山は相対的に大きな打撃を受けた都市と言えます。今や、新しいルネサンス、経済的なルネサンスを始めた時点と言えます。中央政府の支援は勿論無視できません。しかし、経済的な復活は、釜山市民の力によって成し遂げられるべきだと思っています。それで、釜山市でもセミナー、フォーラム等を積極的に開催し、業

界構造調整の重要性等を扱っています。

勿論、中央政府の支援を出来る限り沢山頂くのもいいですが、それが釜山の経済発展において一番重要な要素だとは思いません。

○ 座長

ありがとうございます。他の質問ございませんか。ブリスベン市、どうぞ。

○ ティム・クイン ブリスベン副市長

副市長、発表ありがとうございます。特に、具体的な提案に感動しました。また、情報交流に関する提案が目をひき、恐らく、その部門で二つの都市サミット間の具体的な連携を模索出来ると思います。

情報の交流が、二つの都市サミット間を強く結ぶ第一歩だと思います。二つの都市サミットは、アジア・太平洋都市・地域間の協力の機会をも与えています。二つの都市サミットをリンクさせるのは大切です。

アジア・太平洋地域では、今二つの都市サミットが運営されています。

この二つの都市サミットを連携させる必要があると思いますので、具体的な方法を模索していきたいです。

○ 座長

他には質問ございませんか。ホーチミン市も質問があるそうです。

○ ヴォ・ヴィエット・タン ホーチミン市議長

釜山が早いスピードで経済成長を成し遂げたと言いました。その過程で釜山市が外資を誘致したり外国からの借入を導入したのでしょうか。もし、導入したとしたら規模はどのくらいでしょうか。

○ 南忠熙 釜山副市長

釜山市は、出来る限り多くの海外直接投資を誘致するため最善を尽くしています。今までは、大変成功のだったと評価しています。私は海外直接投資を担当している副市長ではないため具体的な数字はよく分かりませんので、担当者に聞いてみます。

(担当者：昨年一年間で50件余り約5億ドルの外資を誘致し、今年は主なプロジェクト部門で現在まで約17億ドルの外資誘致が具体的に推進されています)

少し付け加えますと、釜山市は、海外直接投資においてかなりの経験を保有しています。釜山市の経験から、外国資本の誘致において何が重要なのかお教えします。

第一には、マーケティングです。ここでのマーケティングは、ネットワーキングを意味する場合もあります。色々な人との関係を構築しなければなりません。金融機関も重要なマーケティングやネットワークの対象になります。釜山市は、システムチックなマーケティング努力を通じてネットワークを構築しています。

第二には、アイテム(製品)がなければならないという事です。そのアイテムについては市からも妥当性調査を行うべきです。そういった投資が必要です。

海外へ出て、ただ「こういった橋を作りたい」ということだけでは外国資本を誘致するのは難しいです。具体的なデータや妥当性調査結果等を提示してこそ説得させる事が出来るのです。それで、市が橋に対する妥当性調査を自ら行う場合もあります。このようなデータを作るためには勿論ある程度の投資が伴います。

以上は、釜山が外資を誘致しながら得た二つの重要な教訓です。

第三には、様々なインセンティブを提供すべきということです。インセンティブ・プログラムを慎重に準備し、潜在的な投資家に会う度、具体的なインセンティブ・プログラムを各々の投資家の必要に応じて提供しなければなりません。

また、その都市で居住する外国人の暮らしのレベルを向上させる方法も準備すべきです。その都市で、暮らしのレベルが向上されるという具体的なビジョンを提示しなければなりません。例えば、釜山は海外の投資家から「釜山に外国人学校があるのか」ということをよく聞かれます。それで、釜山は、かなりの金額を投資して釜山に外国人学校を設立するという計画を樹立しました。このように外国人の暮らしの質を向上させるためのプログラムも推進すべきだと思います。以上です。

□ 座長

また質問ございませんか。質問がなければ、これで釜山副市長の発表を終えさせていただきます。

イポーからいらした代表の方々が、いくつか情報を提供して下さいると提案して下さいましたが、関心のある方は、イポー代表団に直接連絡して下さいれば、インターネットのアドレスとインタラクティブ音声応答関連システムに関する情報も提供して下さいるそうです。

***** 休憩 *****

○ 座長

木下佐賀市長、発表をお願いいたします。

今まであまり質問がありませんでしたが、皆様最後の発表の時に質問をしようとエネルギーを蓄積しているのではないかと思います。期待してみます。

[佐賀市]

○ 市長 木下敏之

本日は、アジア・太平洋地域における都市間の友好増進について、ご来場の皆様とともに探究していく機会に恵まれましたことを大変嬉しく思います。

釜山市の格調高い素晴らしいプレゼンテーションの後でございますが、佐賀市の素朴な都市間交流についてしばらくの間聞いて頂きたいと思えます。まず、本日のテーマに入ります前に佐賀市の概要についてスライドを使って簡単にご説明いたします。

佐賀市は、ここ釜山市から南東へ約240キロメートルのところに位置する西九州の中核都市です。また、九州の玄関口であります福岡国際空港から電車やバスを利用して約1時間で市内の中心部にアクセスする事が出来る、交通至便なところです。

佐賀市は、九州最大の筑紫平野の西半分を占める佐賀平野のほぼ中央部に立地しています。人口は約17万人、面積103平方キロメートルであり、佐賀県の政治、経済、文化の中心地であります。市内には、大小の河川や網の目のように発達した掘割が数多くあり清らかな水が流れる「水と緑豊かな文化都市」であります。

さて私は、佐賀市で開催されているバルーン大会の様態等をスライドでご紹介しながらこの分科会のテーマに沿って主に都市間交流のあり方について考えを述べさせていただきます。

まず、21世紀の都市間交流について考えますとき、高度情報化社会の進展に伴うインターネット網の著しい発達による、時間と空間を超えた情報交換が可能となっています。また、航空機など高速交通網の発達により人々が迅速かつ自由に諸外国へ行ける時代となっています。さらに、地球規模で国家を超えて解決しなければならない問題も沢山出てきており、どこでも通用する物差し、いわゆるスタンダード化が必要となってきたという現状があります。そういう意味におきまして、従来の国家という枠組みが次第に意味をなさなくなる時代がやってきています。

こうした状況の中で、都市と都市とが互いに競い合う時代になってきます。それぞれの都市がいかに街の魅力を高め、アピールしていくかが重要かつ必要不可欠になってきています。

こうした厳しい都市間競争の中にあって、魅力ある街作りを考えます時、その方策は色々あ

ると思われます。世界各国の人々が自由に行き来する昨今、街そのものがオープンな空間であることが最も基本であると考えます。

スライドは、バルーン大会の夜のイベントとして人気のあります幻想的な雰囲気醸し出す、夜間係留の様様を写し出したものです。

ところで佐賀という街は、今から130年前の1870年頃には日本で一番進んだ科学技術を持っていました。

スライドは、日本で初めて作られた溶鉱炉が稼動し、人々が働いている様子を描いたものです。

当時、日本は鎖国をしておりまして、海外との唯一の窓口が長崎でした。その長崎の警備を担当していたのが佐賀藩でした。それゆえ、外国からの技術的・学術的な最新情報をいち早く取り入れたり、外国人との交流ができたことが他に先んじて発展した理由であります。

佐賀藩の技術陣は、西洋の学問を修めた洋式技術者と伝統的手工業技術者によって組織され、スライドに示すような木製の外輪船を日本で初めて製造する等、その先進的な技術をいち早く実用化しています。幕末動乱期の20年足らずで、外国に100年もの遅れをとっていた日本の科学技術を、世界の最高水準にまで高めることができました。

こうした歴史を踏まえ、いま佐賀市では、外国の方々が盛んに往来することができ、情報の交換が活発に行われるオープンな街となることを目指して街づくりを進めています。スライドは、佐賀の夏祭りを楽しむ外国青年達の生き生きした活動の様子です。

また、地域国際化の推進を図るため、アジア地区での姉妹・友好都市との交流をはじめ、広く海外との様々な分野での交流活動を一層推進することにしています。

現在、佐賀市は、スライドに示しますように、アメリカ合衆国のグレンズフォールズ市、韓国の釜山広域市蓮堤区、中国の江蘇省連雲港市の3都市と姉妹・友好都市を締結しています。

なかでも、グレンズフォールズ市とは、一番長く交流を続けております。

といたしますのは、1970年代の後半、当時の宮島佐賀市長は、スカイスポーツ・熱気球を活かしたバルーンフェスティバルを佐賀の観光産業の一つの大きな目玉にしようとの考えを持っていました。ビックイベントとするためには、国際色豊かなものであること、また、大規模に行われている世界各地の大会情報が入ってくる事が重要であると考えておりました。

そこで、1980年に佐賀市で最初のバルーン・フェスティバルを開催し、その後毎年バルーン大会を開催することに致しました。1986年の大会に、グレンズフォールズ市からのバルーンチームが初めて参加したことからバルーンの交流が始まりました。それがきっかけとなり、1988年に姉妹都市の締結をすることになりました。以来、バルーンを中心とした交流が続けられています。

写真は、佐賀からのバルーンチームを歓迎するために用意された手作りのケーキであります。

バルーンの相互交流では、佐賀からのバルーンチームが、グレンズフォールズ市の近郊で開催されますアディロンダック・バルーンフェスティバルに参加します。ここでは、操縦技術や大会運営方法を研修するなど、お互いのバルーンチームが親交を深めながら交流を続けています。

また、同時に行われています教育交流では、両市の中・高校生が短期間ではありますが、相互にホームステイをしながら日常生活や学校生活を体験し、子供達を中心とした友好親善を深めています。その他、短期大学や市立図書館などでも各々交流が行われ、今では両市民挙げての教育交流へと活動が広がってきています。

さらに、バルーン交流の輪が広がり、新たにカナダのガティノー市を加えた三者交流へと発展してきております。写真は、カナダ国旗やメープルリーフを型どったカナダチームのユニークなバルーンです。

ところで、佐賀インターナショナル・バルーンフェスタは、開催当初、海外からの参加機数は10機、選手も50名程度でありました。しかし、1997年の佐賀熱気球世界選手権の開催時には、海外から110機、900名もの選手・役員が参加し、バルーンの総参加機数が171機という大規模な大会になっております。この時、会場には100万人を越す観客が集まり、文字どおりアジア地区で一番のバルーンのビックイベントになり、その経済波及効果は66億円にも達しております。

これからは、物の流通だけでなく、人々の交流、すなわち観光産業が経済に大きなウエイトを占める時代がやってきました。物質的に豊かになった時代には見知らぬ土地に行き、新しいものを見たり聞いたりする事に、人々はお金を使うようになります。

佐賀市の場合には、風光明媚なスポットや歴史的な名所・旧跡が少ないわけではありますが、そういった中でも、地域振興策としてスポーツイベントを有効活用することで、わずか20年という短期間に大きな経済効果を上げる事ができました。そこで今後はバルーンだけでなく、スカイスports全般にわたって検討し、地域に活かせる発展策を模索していきたいと考えております。

これからは、アジア・太平洋地域におきましても、持ちまわりの大会を開催するなど、スポーツイベントを中心とした交流の拡大が可能ではないでしょうか。

本日、ご参加の各都市にもそれぞれ特徴的なスポーツイベントが数多くあると思われまます。それらを活かしたより経済効果のあがる共同事業の取り組みも可能なことではないかと思いまます。写真は、子供達に大人気のキャラクターバルーンが立ち上がっている様子であります。

最後になりましたが、今年も佐賀市では11月1日から5日までの5日間、国の内外から100機を越える熱気球が一堂に集まる2000佐賀インターナショナルバルーンフェスタを開催します。

アジアで最大のバルーン大会を今後益々発展させていきたいと願っておりますので、皆様方のご来場を心からお待ち申し上げます。最後に、釜山市の方々、また、韓国政府に対し、暖かい歓迎に改めてお礼を申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。Thank you very much.

○ 座長

発表ありがとうございました。質問ございませんか。釜山市、どうぞ。

○ 南忠熙 釜山政務副市長

大変立派なアイデアです。特別な一つのアイデアをもって都市間の交流協力を導き出すとは、本当に素晴らしいです。他の都市が提案する前に釜山市が先に提案したいと思います。佐賀で熱気球が発射して釜山に到着するという行事を佐賀と釜山と一緒に開催してみても如何でしょうか。

○ 座長

佐賀市は如何でしょうか。

○ 木下敏之 佐賀市長

大変個性的な提案ありがとうございました。

バルーンの場合、気流の方向に大きく影響されますが、釜山から九州の佐賀に向かって友好の風が流れていると思いますので、その風に乗ってお互いバルーンを行き来する事が出来れば一層大会が発展して行くのではないかと思います。気候条件を検討して、可能なものなら思いきって飛ばしてみたいと思います。

○ 座長

ありがとうございました。多彩でユニークな発表をして下さった佐賀市長に感謝の拍手をお願いします。

[オークランド]

○ 市長 クリスティン・フレチャー

ご列席の皆様、ただ今OHPの準備をしております。市の国際関係を担当しているキャロライン・ラシテ・ターナーさんをお願いして、ニュージーランドを象徴するキウイをお配りしています。

昨日、私が釜山に着いた時、美しい方が私を迎えて下さいました。その方は、キウイは大変美味しい果物だとおっしゃいました。それで、「ええ、そうですね」とお答えしました。しかし、実は、キウイは鳥です。果物ではありません。しかし、キウイは、不幸にも飛べない鳥です。

私は、本当のキウイがどういうものか皆様にお見せしたくて、そして、このキウイという鳥が飛ぶことを学ぶというのが如何に難しいのか知って頂きたいと皆様にお配りしています。

私たちが新しい経済体制に入ってそれに参加するためには、翼を付けて飛びたっていかなければなりません。それで、このキウイを付けて頂きたいと思います。キウイに囲まれて、私は故郷に帰った気分です。

副市長のブルース・ハッカー博士と市議会のリチャード・ノッシー議長と共にこのサミットに参加でき嬉しく思います。

オークランドという大変美しい都市について発表いたします。マウリ語でオークランドは、ティマカワラですが、「多くの人が大切に思う場所」という意味です。それで、皆様が兄弟、姉妹としてオークランドを訪問し、なぜ私たちがオークランドを大切にしているのか理解して頂きたいと思います。

午前、多くの発表者が「国民国家の意味が薄まり、都市国家が浮上するのが世界的な流れ」とおっしゃいました。これから都市が成功するためには、各都市の比較優位を活かし、お互い戦略的提携を結ばなければなりません。戦略的な提携を結べば、近々釜山の副市長が熱気球に乗って佐賀を旅行するのも可能でしょう。都市間の協力と関係の構築は、大変重要です。特に、これからの時代にはより重要だと言えます。

オークランド市は、世界で一番下の方に位置しているため、人々を引き付ける必要があります。誘因しなければなりません。そのため、独特な行事を多く開催しなければなりません。それでニュージーランドで唯一の国際都市、オークランドは、APEC首脳会談を主催し、2000年度のアメリカンカップを開催しました。

オークランドは、暮しの質という部門では世界2位です。それにも関わらず、どうして私たちは貿易について話しているのでしょうか。それは、私たちの市民の暮しをより豊かにするためです。ですから、暮しの質について考えなければなりません。

オークランドは、教育制度がよく整っていると国際的に認められています。情報産業もよく

整っています。人口は、120万名です。ニュージーランド全体の人口の1/3、経済活動の1/3がオークランドに集中しています。オークランドがニュージーランド経済を牽引しているとも言えます。

そして、アジアが太平洋と出会う所もオークランドです。人口の15%がアジア系住民で、2001年には、ほぼ20%はアジア系が占めると予想されています。14%がアジア・太平洋の様々な島から来た市民で、ポリネシア民族もかなり多いです。オークランド市民の37%はニュージーランドの外で生まれ、ニュージーランドに来た人々です。移民人口の35%は、アジア系です。

これは、大変良いことだと思います。彼らは、今やオークランド市民で、私たちは、彼らを新しい市民として歓迎しています。しかし、彼らが固有の民俗的な文化や伝統を失うことを望んではいません。彼らこそ、ニュージーランド文化と海外文化をつなげる人達だからです。

多様な民族が共に暮しているのがオークランドです。このような多様性のため、文化的に豊かな構成となっています。約10000名以上の韓国系住民がいます。プログラム上には、2000名となっていますが、実際は、10000名の韓国系の市民がいます。

オークランド市は、交流を通じて多くの教訓を得ました。オークランドは、学ぶ都市になるのが重要で、過去を基に外部の世界と連携し、自ら適応し、自身を持って未来に向かっていく必要があることを学びました。

国際都市としてオークランド市は、都市間の結び付きの重要性を認識し、姉妹友好都市と様々な分野で交流・交易を振興してきました。教育、青少年、地域政府、貿易、経済、スポーツ、文化、技術等様々な分野で多くの交流を繰り広げています。経済的な機会を共有するため交流をするのです。

オークランド市が推進している幾つかの誇らしいプログラムについて述べさせていただきます。

1987年以来継続しているオークランドと福岡間の交流行事があります。オークランドと福岡の学生が交流行事に参加しています。青少年の間の関係構築は、両都市にとって重要です。福岡貿易博覧会にも参加しています。オークランド企業は、過去3年間この博覧会に参加し、多くの協力を得ました。特に、現地の市場に進出するきっかけを掴むことが出来ました。

そして、姉妹都市とのサッカー大会もあります。ニュージーランド人は、ラグビーの方を好みますが、私は、ラグビーよりサッカーが好きです。それで、サッカー大会が開催される方が好きです。福岡が2回開催し、ニュージーランドが2回、広州が1回開催しました。

技術交流を見てみますと、両都市が全て相手方から貴重な情報を得ています。オークランドと広州は、市の職員の交流があり、相手方の都市で暮し仕事をするという体験をしました。二人の経済開発担当職員がこの相互交流に参加しています。貿易投資ミッション団も派遣されました。また、広州の映画撮影チームが1999年2月にオークランドに来て、オークランドの若者の

暮しを映画にしました。その後、その若者は広州へ行って映画の仕上げの段階にも参加しました。

また、計画と環境管理のような様々なテーマと関連した技術交流がありました。環境管理に関する技術交流が多くありませんが、これからは、この部門により多くの関心を持つべきだと思います。

この他に、姉妹都市サッカー大会もあります。

釜山市との交流においては、図書館交流もあり、200冊余りの本をお互い交換しました。

文化交流もあります。釜山市とオークランド市は、この分野で一連の交流行事を設けました。

オークランド市は、二つの都市の間で年例文化交流行事を開催することを検討しています。釜山市は、オークランドの韓国系市民の要請によって、オークランド現地市民のため、合唱団と舞踊団を派遣しました。

貿易関係をより拡大するためにも、多くの取組みを行っています。貿易及び投資使節団交換、貿易展示会等を通じて多くの企業に門戸を開くことが出来ます。技術交流において、二つの都市間の活動の焦点は、都市行政の効果的かつ効率的な管理のため、職員を交流させることです。

姉妹都市のプリズベンとは、観光行事を共に行っています。今後、観光分野でも多くの協力が可能であると思います。

最後に、私を議長に選んで下さったこと、改めて感謝申し上げます。そして、こんなに立派な分科会に参加出来たことを光栄に思います。

私たちが新しい、画期的な方法を模索出来ることを願います。青少年交流、スタディーグループ、技術交流のみでなく、想像力を動員して如何に一層高いレベルでの交流が出来るか考えなければなりません。ある組織の問題のため、決まった枠組みのため、私たちは想像力を発揮出来ずクリエイティブなアイデアを出せないでいる気がします。このようなフォーラムを通じてアイデアを交換すれば、より新しいアイデアを出すことが出来るでしょう。

私たちは、全ての分野で国際関係を継続して維持・強化すべきです。これが、オークランドの未来に対する戦略的なビジョンです。実際、ニュージーランドで、厳密な意味での国際都市は、オークランドしかありません。

オークランドは、日々に多様化が進む都市です。100の違う文化圏から来た人々がオークランドに住んでいます。このような点を活かしてオークランド市の様々な分野に市民が参加し、所属感を感じられるよう努力しようと思っています。文化的な相互理解の増進と文化的な調和を目標にしています。文化的な交流の機会も増やしていきたいです。これにより、今後も交易のため、多くの取組みを推進し、教育と観光分野の交流にも力を注ぎます。

オークランドが外部の世界に門戸を開き、市民を代表する責任者としての市長の役割はより

大きくなりました。市の指導者は、経済的な恩恵を全ての人が享受出来るようにしなければなりません。そして、全ての市民に、より多くの機会を提供しなければなりません。姉妹都市は、私たちにとって大変重要です。釜山市に改めて感謝申し上げます。今回の第4回アジア・太平洋都市サミットを準備して下さりありがとうございます。

最後に一つ申し上げたいと思います。今日は、母の日です。この部屋にいる全てのお母さん方にお祝い申し上げます。まだお母さんに電話もせず、愛してるという言葉伝えていない方は、必ず電話をして下さい。

○ 座長

座長として討論を続けます。質問はございませんか。質問がなければ、討議を続けます。今まで発表された内容をどう取扱うべきか考えてみたいと思います。ホーチミン市のタン議長、質問をどうぞ。

○ ヴォ・ヴィエット・タン ホーチミン市 市長

ありがとうございます。市長は、先進国の現代都市の市長ですが、貴都市では、どのような問題点がありますか。一番大きな問題は何ですか。

○ フレチャー オークランド市長

問題は多いです。中でも一番大きな問題は、インフラに対する投資が不足しているという点です。今も上水道、下水道、交通等大規模のインフラ事業に大きな投資が行われていますが、このため、市民の負担は大きくなりました。人口130万の都市に交通問題なんておかしいと思われるかも知れませんが、実際、交通は大きな問題です。人口は100万余りなのに、自動車が50万台です。大衆交通は、ひどい状況です。財政には、限界があるため、大衆交通手段に優先順位を置いて開発を進めています。混雑は、経済的費用を意味します。交通は、また、環境問題にもなります。交通問題を解決するためには、数十億ドルの財源が必要ですが、他の都市も海外投資のパートナーを探しているのが分かりました。

重要な問題は、多人種多文化が共存するという点です。100余りの違った文化を持った人々が調和をなして暮らす方法を学ばなければなりません。そういう点で、オークランドは、世界的なモデルになれると思います。そのためには、平等が基本となり、教育が中核となるでしょう。市議会、副市長など、私たち皆が努力しています。

○ フセイン イポー市長

発表ありがとうございます。市長がオークランドをかなり発展させたと思います。オークランドを良く理解出来ました。アメリカンカップの開催等、いくつかのイベントを計画しているとおっしゃいましたが、オークランドは、いつかCommonwealth大会を開催した事があると思います。観光客誘致や大型プロジェクト等を通じて観光客も誘致し寄付金も受けて一層大きな役割をオークランド市が果たすという意味でしょうか。これは、通常の役割以上のものだと思いますが。

○ フレチャー オークランド市長

実際、オークランドの場合、リーダーシップを取ることがよくあります。

これからは、国家単位の競争から都市単位の競争に変わると申し上げましたが、ニュージーランド最大の都市として、オークランドはニュージーランドを広報するのに大きな役割を果たすべきと思います。他の都市も同じです。

私たちの役割は、大きいとも言えますが、時には寂しいです。中央政府の財源を公平に使うのは難しいからです。このような点で、お互い協力する必要があります。市民の福祉を高めるため、お互い競争をするのではなく、国際的に自らマーケティングを繰り広げる必要があります。一昨日、福岡の素晴らしいスタジアムを拝見させて頂きましたが、誰かが「私たちもああいうものが必要だ」と言いました。オークランドは、財源がないため、直接建てることは出来ません。

ですから姉妹都市と協力して共同広報する方法を模索します。福岡とも可能ですし、また、釜山市にも素晴らしい施設があります。ウォン専務がニュージーランドのオークランドで初めて韓国貿易振興公社(KOTRA)のオフィスを立ち上げる時、一緒にお仕事させて頂きました。二つの都市は、外国で各々の長所を一緒に広報し、国際行事を誘致出来ると思います。

私は、都市が立派にリーダーシップを取れると思います。政府の指示を待つのではなく、私たちが先にボールを持ってリードして行くのです。また、市民を教育しなければなりません。ニュージーランドの人々は、まだ、「自由貿易」を恐れています。ですから長所を説明して市民を教育させるのに努力しています。市民の指示を得てこそ市を変えることが出来るからです。また、私達は、戦略的計画と市民広報に多く投資しています。このような部分が過去には不足していたためです。未来の青写真を見せてどうして市が変わるべきなのか説得します。マレーシアの経験、リーダーシップを取った事例等を話すのもいいと思います。

○ モドザイン クアラルンプール文化社会福祉部副課長

市が多く役割を担うべきだということ、まさに同感です。クリエイティブな新しい潜在力を育んでいく必要があります。他の都市もオークランドから学ぶべきです。

○ フレチャー オークランド市長

ありがとうございます。オークランドは、6ヶ年戦略についての革新的内容の資料を持ってきました。関心のある方にお配りします。

私の経歴は、少し変わっています。私は、ニュージーランドの議員という安定したポストを離れ、約10年前オークランド市の市長になりました。恐らく、政治家の方々は、議員というのが如何に確実なポストであるかご存じだと思います。このようナリスクを甘受した理由は、今後のパワーベースは国家でなく都市にあると思ったからです。佐賀市から質問が出ています。

○ 木下敏之 佐賀市長

質問があります。

○ 座長

佐賀市がオークランド市に質問があるとおっしゃいました。

○ 木下敏之 佐賀市長

質問があります。過去10年間、佐賀市は姉妹都市と交流して参りましたが、文化的交流が経済的交流に発展し、続かなくなることがあります。オークランド市は福岡市と国際見本市を開催していますが、文化交流から経済交流に移りどのような効果・影響が現れていますでしょうか。また、これに関してどういう計画をお持ちでしょうか。

○ フレチャー オークランド市長

経済交流以前に文化交流が先立たなければなりません。一旦、姉妹・兄弟となってからこそビジネスを一緒に出来ます。実際、オークランドが他の都市と戦略的な関係を構築する時、いつもこの点を強調してきました。お互いへの理解が深まれば、貿易障壁のような障壁はなくなります。友だちになれば、障壁はなくなります。従いまして、文化的交流、特に青少年交流、年輩の方々の交流、また、その他の革新的な方法で他の都市の文化を理解することが重要です。

教育も大切です。オークランド市も教育に力を入れていますが、幼い頃から相互訪問し、他の

文化を理解するのは大変いいことだと思います。

今日、良いアイデアが沢山でした。特に、複数のサミットよりは、一つのサミットに全てを統合させ都市の役割を強化させようという意見は大変良かったと思います。質問ありますか。

ジャカルタ市、どうぞ。

○ スティヨソ ジャカルタ道知事

オークランド市民は、多様な人種で構成されているようですね。ジャカルタも似ていますが、社会的に問題はありませんか。秩序という面で、そのような大規模のファミリーをどうやって一つにまとめて運営しているのでしょうか。

○ フレチャー オークランド市長

治安は、普通、中央政府の責任の下で維持されています。しかし、中央政府の対応が遅いため、私たちは地方政府法を適用していますが、これは、中央政府法の一部です。それで、私たちは地方政府法を改めようとしています。地方政府がより多くの権力を行使するため、地方政府が治安を決定出来るように法を改めようとしています。

どうすれば多人種間で調和をなして暮していけるのかについてお話申し上げます。まず、オークランドは、相対的に若い都市です。ニュージーランドの歴史を見ても、原住民であるマウリ族とヨーロッパからの移住者(当時イギリスの王)が条約を結んで作られた国です。多民族になる前に、まず、この二つの文化圏を認めなければなりません。原住民であるマウリ族も認めなければなりません。そうしなければ、人種的な葛藤が生じるでしょう。

この二つの文化圏の間に健康な関係が構築されれば、他の民族も快く迎えられると思います。バングラデシュであれ、台湾であれ、どこから来てもその国の性格を理解し、伝統を重視しなければなりません。ただ、新しい移住者に対する教育と英語の教育が充分ではありませんでした。また、ニュージーランドの環境問題も強調しなければなりません。

○ ヴォ・ヴィエット・タン ホーチミン市長

質問があります。多民族が調和をなして暮していけるための良いアイデアをお持ちだと思います。ところで、世界的な統合となると、強大国の文化がより多くの力を持つことになると思いますが、そうなれば、力の弱い国は困難を経るのではないのでしょうか。

○ フレチャー オークランド市長

個人的なアイデンティティとなると、そういう恐れがあります。新しい経済体制が抱えている

大きな問題は、私たちの子供達がアイデンティティを持たなくなる恐れがあるということです。自分がどの文化圏に属しているのかははっきり認識すべきです。私の子供は、アメリカのテレビ番組が好きです。私は、「あなた達はニュージーランド人だから、テレビを消しなさい」と言います。

現地の文化を支えるため、オークランドの芸術と文化を支援するプログラムも必要だと思えます。子供達に、ニュージーランドにも、他の国のスターと肩を並べられる立派な芸術家がいるということを教えなければなりません。

私たちは、キウイと同じであるということを教えなければなりません。それと同時に世界の市民になれるように育てなければなりません。また、環境に対する責任を持てるように育てなければなりません。

この分科会で提起された問題をまとめてみます。レインボー博士が議事録を作成して下さいましたが、今日の発表の内容をまとめて下さい。その内容を聞いてから皆様と相談して優先順位を決めてみたいと思います。

□ レインボー博士

共通的な内容としては、グローバル化の流れの中で都市間交流の重要性を強調するものでした。特に、経済発展に重点を置いています。多くの発表者は、都市を経済発展の原動力にすべきとの意見を述べて下さいました。

都市間交流を通じて国家間交流による官僚主義を克服出来るとの意見もございました。グローバル化と共に国家の役割が減少し、地域、または、都市の役割が浮上しており、これを原動力として都市間交流を発展させるべきとの指摘もありました。

また、具体的に都市問題、特に都市化が進むにつれて生じる問題に対し、共同対策を模索すべきとの意見がありました。都市は、交易のみでなく、文化と文明が発展する場所なので、このような都市問題の解決が重要との意見がありました。

自由貿易の発展に伴い国境の意味が薄らぎ自由競争がこの時代のテーマになっている状況で、都市が競争をリードし協力の中心になるべきであるとの意見もございました。

都市間の競争は、活力の溢れる安全で環境にやさしい都市を作ることであり、これを通じて競争時代の成功を保証されるというお言葉もありました。

結論を申し上げますと、全ての発表者が強調したのは、国際的な交流を基に国家間交流と協力をより発展させようということでした。また、釜山副市長は、情報技術を積極的に活用し、各都市が抱えている問題を克服するために協力しようと述べて下さいました。

○ 座長

参席者の皆様、付け加えたい事や、優先順位を決めるにおいて良いアイデアがあれば、発表して下さい。

私の方からタン議長に一つお願いがあります。ホーチミン市のタン議長は、官僚主義をなくすのが腐敗をなくす方法だと述べて下さいましたが、これを一層拡大させる必要があると思います。公正な世界を作るのが私たちの目標ですので、不正腐敗をなくす方法についてもう少し詳しく説明して下さい、それを報告書に盛り込みたいと思います。官僚主義は、全ての国家が経験している問題だと思いますので、これを報告書に付け加えたいと思います。

○ ヴォ・ヴィエット・タン ホーチミン市長

ベトナムの場合、政府がリーダーシップを取ってサービスを提供する役割を担っています。

○ レインボー博士

結論として、「官僚主義を清算するのが重要である。そうでないと、官僚主義は腐敗が発生する環境を作る」という意味の文章を付け加えればよろしいでしょうか。タン議長。

○ 南忠熙 釜山政務副市長

博士、討議内容を正確にまとめて下さり、ありがとうございます。

一つ付け加えたいと思います。二つの都市サミットの協力関係を強化するのも重要です。結論にもこのような内容を盛り込んでいきたいと思っています。皆様が賛成するかどうか分かりませんが、二つの都市サミット間の競争よりは潜在的な協力を模索するのに最善を尽くすという内容を付け加えたいと思います。

○ 座長

南副市長のご提案は、二つの都市サミットを一つの都市サミットに統合させるために努力しようということですか。

○ 南忠熙 釜山市政務副市長

一つに統合するのが一番良い方法かどうか分かりませんが、まず第一段階として協力関係を構築するという所から始めるのがいいのではないのでしょうか。

○ フレチャー オークランド市長

では、「協力増進を図る」ということでよろしいでしょうか。今の意見について賛否を聞きたいと思います。ジャカルタ市の代表は、今の内容を付け加える事に賛成しますか。

○ スティヨソ ジャカルタ道知事

賛成です。

○ 座長

クイン副市長は。

○ クイン ブリスベン副市長

私も南副市長のご提案に賛成します。二つの都市サミットは、殆んど平行線状で同じ時期に発展してきました。多くの都市が二つの都市サミットに参加し、二つの都市サミットを相互補完的に捕らえています。二つの都市サミットは、各々北アジア地域と南アジア地域を中心に域内の都市を誘致してきました。なるべく早く二つをリンクさせる必要があると思います。今直ぐ二つのサミットを合併する必要はありませんが、連携させるのが重要でそれを基に将来統合も可能だと思います。

釜山副市長は、発表を通じて、大変具体的な提案をして下さいましたが、このようにリンクさせるのは、いいアイデアだと思います。三つほど具体的に提案したいです。

- 1) 都市間交流協力システムの確立。私は、二つの都市サミット間にもそれが必要だと思います。
- 2) 二つのサミット間で情報連結網を作ること。
- 3) 今回の都市サミットの結果を、来年5月のシアトルで開催される都市サミットに反映させること。

以上です。次の都市サミットがどこで開催されるか分かりませんが、確かな事は、お互いもう一つの都市サミットを意識しているということです。また、絶対リンクさせるべきだということも認識しています。

○ 座長

ありがとうございました。ジャカルタ代表はこの提案を報告書に入れる事に賛成しますか。

○ スティヨソ ジャカルタ道知事

どのサミットでしょうか。

○ クイン ブリスベン副市長

もう一つの都市サミットは、ブリスベン市が2年毎に組織する会議です。97年と99年に開催されました。ここには、60の都市が参加しています。今回の都市サミットの参加都市の中には、ブリスベン市の都市サミットに参加している都市もございます。第3回都市サミットは、2001年にシアトルで開催されます。二つの都市サミットを区別するのは、難しいです。名前も同じで、両方ともアジア・太平洋都市サミット(Asian-Pacific Cities Summit)です。北太平洋地域では、釜山、広州、福岡市が主催都市です。

○ 座長

今、釜山市とブリスベン市が提案して下さいました。報告書に入れるかどうかについて合意しなければなりません。ジャカルタは賛成しますか。

○ スティヨソ ジャカルタ道知事

今の提案は、二つのサミットを一つにするという計画に関するものでしたが、報告書に入れる事は反対です。ジャカルタは、もう一つの都市サミットには参加していません。ですから、もう一つのサミットの目的や使命等を検討してから決定します。提案としてのみ記録するのがいいと思います。

○ 座長

今の南副市長の提案は、二つのサミットの相互協力のための戦略を検討するという程度の内容でした。ですから、あまり問題はないと思います。

○ スティヨソ ジャカルタ道知事

よく分かりました。賛成します。

○ クイン ブリスベン副市長

一つ付け加えたいと思います。今、統合ではなく、リンクさせる問題について話してまして、これは次の世代のためのことです。

○ 木下敏之 佐賀市長

私はブリスベンの都市サミットについてはよく分かりませんので、お答えできる立場ではありませんが、二つの都市サミットがお互いリンクし協力する事には賛成です。

○ ヴォ・ヴィエット・タン ホーチミン市長

サミットの内容が似ているのなら、お互い協力する方が市長の時間の節約にもなっていると思います。具体的な協議が必要です。

○ 座長

ありがとうございます。同意の発言ございませんか。

○ フセイン イポー市長

イポーは、両方の都市サミットに参加しています。この二つの都市サミットは、参加都市や目的は似ていますが、ブリスベンの都市サミットはビジネスに重点を置いています。都市発展のためのパートナーを探すという点で大変重要な機能であります。ブリスベンが莫大な財政と努力を傾けた都市サミットを他の都市サミットと合併するのは、適切でないと思います。ただ、二つのサミット間で情報交換・意思疎通をする必要はあると思います。

これにより参加者の時間を有効に使い、適切な議題を扱う事ができると思います。こうして二つのサミットを発展させ、将来統合するという方法もあると思います。

○ 座長

ありがとうございます。そろそろ時間です。討議に参加して下さった皆様に感謝申し上げます。